

県連ニュース

2009年3月1日発行
栃木県勤労者山岳連盟

2009年 関東ブロック救助隊深雪搬出訓練への参加報告・・・1
第6期ハイキング楽校第9回実技講習～鹿沼岩山～・・・4
「山の野生鳥獣レポート」— 実施中!・・・5

2009年 関東ブロック救助隊深雪搬出訓練への参加報告

栃木労山救助隊

関東ブロック各都県連盟救助隊から合計80名あまりが参加して、関東ブロック救助隊深雪搬送訓練(09年2月14・15日)が谷川岳土合周辺で行われた。

栃木労山からは、以下の12名が参加した。

- ・森 初芳救助隊長、初谷 智、西本りえ(マウントアンサブル)、塚越拓也(宇都宮山の会)、
- 草鹿 元、打木雅人、清水 一(野木山想会)、望月和子(山人クラブ)、猪鼻春男、
- 安齋博子、小嶋利武、吉岡昌徳(宇都宮HC)

カリキュラム

2/14	GPSを用いた捜索救助支援について
	<ul style="list-style-type: none"> ① GPS活用法の講義 ② GPSによる座標連絡(アマチア無線機)とパソコン地図情報との連結 ③ 野外シュミレーション
交流会	
2/15	訓練Gr: 深雪捜索搬出訓練(森、初谷、塚越)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 西黒尾根にて実践的な捜索(GPSを用いた捜索救助支援含む)活動 ② 西黒尾根にて実践的な梱包、搬出訓練
	講習Gr: 捜索搬出基本講習(草鹿、打木、清水、西本、望月、猪鼻、安齋、小嶋、吉岡)
<ul style="list-style-type: none"> ① ビーコン捜索訓練、プローブ(ゾンデ)による捜索訓練、埋没体験 ② シート梱包訓練、ストレッチャーによる搬送訓練 ③ 支点構築と引き上げ、引き下ろし訓練 	

以下、参加者の感想文を読んで下さい。

栃木県勤労者山岳連盟 発行責任者：増田俊男 編集責任者：橋田弘一

321-0345 宇都宮市大谷町1109

<http://www.geocities.jp/tochigirosan/>

◆関東ブロック救助隊深雪搬送訓練に参加して 草鹿 元(野木山想会)

14 日朝、岩船町役場駐車場にて数人のメンバーとおちあいマイカーにていざ出陣。土合山の家に到着し手続きを済ませ、今年の主管である神奈川県連の海輪氏による開会の挨拶の後、午後より講習のスタートとなる。

初日は GPS を用いた模擬捜索支援と山スキーを用いた救助訓練の 2 コースであるが、小生は前者に参加。模擬捜索支援班では捜索者に割り当てられた 3 名が GPS と無線を持ってそれぞれ実際の捜索ルート歩き、適宜自分のいる場所を GPS で確認し本部に連絡する。本部では地図ソフトを用いて捜索状況をパソコンに経時的に入力していく。捜索者からの緯度経度の無線情報をコンピューターに入力すれば、たちまち地図上に現在地が掲示され、捜索者の足取りが明瞭に把握できる。本部にいながら捜索範囲を把握し、絞り込むこと等が容易にできる訳だ。また、GPS とパソコン間でのデータのやり取りの方法など、より有効で高度な GPS 使用方法について学んだ。

夕食後は酒を飲みながら懇親会が執り行われ、海輪氏からの「飲み過ぎないように！」などの指導もどこへやら、皆が二次会、三次会へと突入した。

翌日は、救助練習の訓練 Gr(西黒尾根)と講習 Gr に分かれ、小生は後者への参加となった。天気は快晴でしかも妙に温かく、雪も少ないためか、様相はまるで春である。講習 Gr は白毛門登山口の駐車場の雪面に集まり、3 班に分かれて基本技術講習が行われた。



ゾンデ(プローブ)による捜索訓練

我々の東京・栃木班は、最初にゾンデ(プローブ)やビーコンでの捜索の講習と実習を行い、次は負傷者の梱包、搬送の講習と実習、最後は雪の斜面での支点の構築と引き上げ、引き下ろしの講習と実習を行った。

特に負傷者引き上げのためのロープワーク訓練では、三分の一引き上げ法ではプーリー(滑車)が必要なことや五分の一引き上げ法だとスムーズに引き上げが可能なことを実感できた。



負傷者引き上げのためのロープワーク訓練



雪の中への埋没体験

最後の総仕上げでは実際にメンバーを雪に埋めて、雪面からゾンデを差し込み「人間の感触」を確かめる実演を行った。全過程終了後全員無事に帰路に着いた。

◆関東ブロック救助隊深雪搬送訓練に参加して 安齋博子（宇都宮HC）

私は救助隊員となってまだ日が浅く救助体験も無く知識が少ないものですから、今回この訓練に参加させていただきました。

まず、GPSを使用してPCで現在位置の検索をする方法を見せてもらい、雑誌や話で聞いていたものを実際に見て、現在の技術の素晴らしさにただ驚くばかりでした。基本は地形図とコンパスですが、ホワイトアウトなどの悪天候時にはもってこいの道具だと感心。高価ではありますがやはり雪山に入るときは持つべきものだと考えさせられました。

そして、ビーコンによる搜索訓練です。実際にビーコンを使ってみると新・旧製品の感度の差、操作方法の違いや電池の寿命など、メーカーによって随分と異なるので、今後の購入に対して大変参考になりました。プローブ（ソンド）による搜索訓練も体験しましたが、GPS同様、プローブもビーコンも雪山には必須の武器だと改めて痛感しました。



シート梱包訓練



搬出訓練

次に、「雪山での事故者搬送法」ですが、私はあいにく「事故者」の役だったので救助される立場になった気持ちで、シートの中でじっと我慢していましたが、次第に寒さと身動きもとれぬままの不安な気持ちを実感することができました。そして、東京の女性の方が「大丈夫？」と声をかけてくれた時、「ああ、このひと言は身に染みるな」と感じました。ただ、実際の梱包の手順、結束法については、シート梱包～搬出を全力で学んでいる仲間の姿をみているうちに、私もやってみたいとの気持ちが沸いてきて羨ましくも感じました。

また、雪山での支点取りと転滑落者の救助方法を指導してもらいましたが、スノー・バーやアイゼンを使用したり、土嚢袋もアンカーになるという事も知ることができたので、いざというときに即実践できるようロープワークと併せて繰り返し練習しようと思いました。

今後、救助隊員として実際に現場に行くことは無いかもしれませんが、セルフという意味でも、体力的にも精神的にも強くあることは大切で、事故者への外傷の手当て、心理面への配慮なども含めて冷静に判断し迅速に行動できるよう総合的に自身をスキルアップしていく必要性は強く感じました。短い時間の中でしたが、他県の救助隊の皆さんのレベルを知ることができ、今の自分に何が出来るのかを改めて考える時間を得て良かったと思いますし「山で死んではいけない」と、更に意識した2日間でした。

最後になりましたが、80名もの受講者一人一人に解りやすく丁寧に指導して下さった神奈川県連救助隊の皆さん、ご苦労様。そして、ありがとうございました。この2日間で覚えたことを忘れないよう自分の物にしていけるようこれから頑張ります。

以上

第6期ハイキング楽校第9回実技講習～鹿沼岩山～

～トップロープ岩場登降と確保、自己ビレイなど～

日 時：2009年02月1日（日） 天気：曇り後晴れ

コース：鹿沼岩山登山口集合（日吉神社）・・・岩山3番岩（岩トレ）・・・登山口

当初予定していた08年12月14日（日）が雨で延期になり、本日第9回実技講習（鹿沼岩山）が行われた。

今回の実技講習の目的は「岩場での恐怖感や不安な気持ちを克服し、ゆとりを持って安全に通過できるようにする力を得る」ためであり、主なメニューは下記の2項目です。

- (1) トップロープ岩場登降訓練及び登降者の確保法と自己ビレイ
- (2) 懸垂降下訓練

以下、ハイキング楽校生の感想文を読んでください。

<第9回 実技講習「鹿沼岩山」感想文> 宇都宮ハイキングクラブ 田岡 正子

02月1日（日）日吉神社登山口の駐車場が狭いので、各グループ毎に車に乗り合わせて8時に集合しました。

ハーネス、安環付カラビナ、カラビナ、マッシュャー、ロープ、テープスリング、ヘルメットを各自装着して、準備体操を行う。

出発前に、大貫CLと八木沢SLから、講習の内容、手順についての説明があり、4班に分かれて岩山3番岩に向けて歩き出しました。登山道は昨日の雨ですべりやすく、岩が濡れていないか心配です。

岩山3番岩のA峰上部にザックを置いたのですが、岩が少し濡れていて、そこに登るのにロープを張って頂き、慎重に登りました。



岩場登降訓練（B峰南面）

私達の2班は猪鼻班長のもとに、岩の引っ張りを見つけてつま先での練習をしてから、いよいよトップロープでの岩場登降訓練を開始した。

10m位の岩場（C峰西面）で、登攀者はハーネスとメインロープを結合し、ビレイヤー（確保者）は自己ビレイを取ってからメインロープを確保器に通してビレイ体制に入り登攀訓練の準備完了です。



A峰上部にてお昼

登る時は、3点支持、上体を岩から離す、足元や進行方向を広く見ることなどの指導を受けながら私も恐る恐る岩にへばりつく。ノドはカラカラ、心臓はドキドキ・・・でも2～3回登り降りすると、何故か けっこう楽しくなってきた。

次に、1・2班はB峰南面に移動して、トップロープでの岩場登降に加えて、懸垂降下訓練及びビレイヤーとしての訓練と大忙し・・・であつという間にお昼休憩になってしまった。この頃になると 岩面も乾いてきて滑る心配もなくなってきた。

午後からは、お昼休憩したA峰上部からA峰南面に懸垂降下することになった。大貫CL・八木沢SLの指導で各班長が支点を設置してロープを通して、いよいよ、20m以上ある岩壁（A峰南面）の懸垂降下です。

私も、B峰での懸垂降下の際は正直ビビりまくりでしたが、この時はスムーズに降りることができホッとしました。それからトップロープを4本設置して登降訓練です。

20m以上ある岩壁（A峰南面）での登降訓練は、上から下を見るとさすがに高さを感じ、その分だけ真剣さも増しました。登る距離も長く疲れましたが、チムニーとか岩壁の形も色々あり、けっこう楽しかったです。教えていただいてありがとうございました。

田岡 正子



ハイポーズ！（A峰南面にて）

「山の野生鳥獣レポート」 — 実施中！

高山帯の鹿の採食圧による害が急速に拡大しています。そもそもシカは平地に生息する動物であったわけですが、かつての生息域を変え、餌場を求めより高山へと移動しつつあります。このことは、まさに自然を含む環境の変化が大きく影響していることを示すものといえます。

南アルプス仙丈ヶ岳では、この鹿の移動によって高山植物が採食と、地球温暖化や酸性雨に重なって、植生が壊滅的な状況となっております。

また、このよう状況は日本の他の山岳でも報告されており、デリケートな山岳環境の致命的な変化が顕在化しています。

山岳環境を守るためわれわれ山岳団体関係者として、このシカの例に見られるような環境変化を野生鳥獣の生息の動きを通して掴みとるべく、山の野生鳥獣目撃についてレポートに多くの方々の参加を頂き、山岳環境保全に向けた世間へ訴えたいと思います。

この活動は日本を代表する山岳団体（日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本ヒマラヤンアドベンチャートラスト、東京都山岳連盟（自然保護）、山のECHO、日本ヒマラヤ協会）の協働事業として行われているものです。

対象の主な鳥獣

シカ カモシカ ライチョウ クマ

このほか地域で特有な野生鳥獣を目撃した場合に本レポートでご報告ください。種類を限定しません。

対象の主な場所

1) 亜高山帯以上の高標高を含む日本国内の山岳の各地。 2) 但し、平地や里山などを除きます。

レポートの方法

レポートは次の方法で実施します。

1) パソコンメール

インターネット経由のレポート→ <http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/index.html>

2) 携帯メール (i-mode)

上記HPからQRコードを携帯電話で読み込み、携帯サイトに接続してから、画面に表れるレポート票に 入力にて、送信ください。

この調査の実施期間

1) この調査は平成25年までの予定で実施します。